

一般社団法人日本災害看護学会 令和 6 年度定時代議員会 議事録

I 開催日時：令和 6 年 8 月 30 日(金) 15:00～16:30

II 開催場所：WEB 会議システムによる開催（兵庫県立大学看護学部看護学科会議室）

III 出席代議員（社員）：23 名

大野 かおり、酒井 明子、渡邊 聡子、佐々木 久美子、立垣 祐子、松岡 千代、神原 咲子、河原 加代子、今津 陽子、渡邊 智恵、三浦 英恵、東 ますみ、久保 恭子、山崎 加代子、中信 利恵子、黒瀧 安紀子、久保 祐子、夏目 恵美子、石川 麻衣、松成 裕子、北村 愛子、齋藤 正子（組織）、増野 園恵（組織）

委任状：16 名

III 出席役員（理事）

大野 かおり、酒井 明子、渡邊 聡子、佐々木 久美子、立垣 祐子、松岡 千代、神原 咲子、河原 加代子、今津 陽子、渡邊 智恵、齋藤 正子、増野 園恵、西上 あゆみ、宮前 繁、大村 佳代子(書記)

III 出席役員（監事）

東 ますみ、三浦 英恵

IV. 議事

1. 開会の挨拶（酒井副理事長）

酒井副理事長より開会の挨拶があり、参加者 23 名、委任状 16 名で定款第 24 条および第 25 条 4 項に基づき、代議員会が成立することが報告された（代議員 46 名中、39 名出席）。

2. 理事長挨拶（大野理事長）

大野理事長より挨拶があった。

3. 第 26 回年次大会の報告（第 26 回年次大会長 西上あゆみ氏）

第 26 回年次大会長 西上あゆみ氏より挨拶があった。

4. 議長指名及び議事録署名人選出

【承認】

定款 22 条に従い、議長は大野かおり理事長が指名された。山崎加代子氏、久保恭子氏の 2 名を議事録署名人として選出され、承認された。

5. 報告

【承認】

下記のとおり報告を行い、質疑等なく全会一致で承認された。

1) 登録会員数の推移（大村理事）：代議員会資料 p.1

2024 年 6 月 30 日現在、名誉会員 10 名、個人会員 1325 名、学生会員 10 名、組織会員 33 組織、賛助会員 10 組織であることが報告された。

2) 理事会報告（大野理事長）：代議員会資料 pp.2-7

理事会の活動について大野理事長より報告された。

3) 代議員会報告（大野理事長）：代議員会資料 p. 8

令和 5 年 9 月に開催した令和 5 年度定時代議員会について報告された。

4) 組織会員会報告（齋藤組織会員理事）：代議員会資料 p.8

令和 5 年 9 月に開催した第 25 回組織会員会について報告された。

6. 議事

1) 令和 5 年度事業報告の承認：代議員会資料 pp.9-14

【承認】

下記のとおり各事業の報告がなされた。

(1) 学会誌編集・発行（渡邊聡子理事）

学会誌 3 誌の発行、新規投稿は 8 件であった。査読委員選定基準及び査読規程の見直しを行なった。オンライン投稿システムを検討している。

(2) 組織会員の活動推進（齋藤理事）

組織会員数の拡大を検討した。組織会員間の情報の共有と相互啓発の推進、オンラインにて委員会を開催した。

(3) 社会貢献・広報活動（立垣理事）

ホームページの保守・管理・運営ならびに能登半島地震に関する記事の更新、ニュースレター（46 号・47 号）の発刊、第 25 回年次大会の企画・開催を行なった。

(4) ネットワーク活動（佐々木理事）

初期調査は地震 8 件、水害 6 件等について災害時初期調査・初動調査を実施した。委員会は 8 回開催した。「令和 5 年 7 月豪雨」に対する継続調査を 2024 年 7 月に福岡県および秋田県にて実施した。

「令和 6 年能登半島地震災害看護プロジェクト」活動者派遣を行った。

(5) 教育活動（酒井副理事長）

教育活動セミナー「災害看護教育におけるリアルとバーチャルの融合」を 1 回開催した。

(6) まちの減災ナース指導者（松岡理事）

まちの減災ナース指導者 6 期生の養成研修と第 5 期生のフォローアップ研修を開催した。研修修了生にアンケートを実施し、修了後の活動について調査を行なった。第 25 回年次大会において「町の減災ナース指導者」の普及活動を行った。

(7) 認証制度（大村理事）

まちの減災ナース指導者の指導にあたるマスタートレーナー 3 名の推薦を行い登録した。まちの減災ナース指導者 6 期生 12 名、短期研修修了者 1 名の認証審査を行ない理事会の承認を得て認定した。5 年目の更新認証に向けた電子システムの構築を行なった。

(8) 国際交流の推進（神原理事）

第 25 回年次大会の学会企画でトルコやウクライナの人道支援・災害看護の貢献を取り上げた。を行なった。WSDN の活動支援、第 8 回世界災害看護学会開催に向けて委員会として協力している。

(9) 募金活動（渡邊智恵理事）

トルコ・シリア大地震看護活動支援募金はトルコ看護師協会へ、モロッコ地震看護活動支援募金はモ

ロッコ助産師協会へ寄付を行った。令和 6 年能登半島地震看護活動支援募金は継続している。

(10)災害看護学術用語（河原理事）

災害看護領域として活用できる用語の範囲を絞り込み、新たな用語の検討を行った。

(11)若手アカデミー（神原理事）

若手科学者の視点を活かした災害看護への提言を 2 点行なった。若手アカデミーのネットワークの拡大、日本災害看護学会学生会の運営に向けたサポートを行なった。

(12)災害看護倫理検討（今津理事）

災害看護研究における研究倫理推進として第 25 回年次大会において交流集会を企画している。令和 6 年 10 月からの研究倫理審査を受け付けに向けた体制を整備した。

(13)COI マネジメント（増野理事）

オンラインによる COI 自己申告を開始し、対象者 63 名中 53 名が自己申告を行った。

(14)災害看護ケアの質向上（渡邊智恵理事）

本委員会の任務について検討した。

(15)将来構想プロジェクト（大野理事長）

新たなネットワークとして JANA、JANPU、JANS との情報共有の仕組みを検討した。災害看護学としての学術書を作る企画したが未着手。国内外の協力として WANS への参加を行った。

(16)令和 6 年能登半島地震災害看護プロジェクト（酒井副理事長）

被災地支援、復興マルシェの協働開催、緊急報告会 2 回、JANPU・JANA との連携、ニューズレターおよび学会誌への投稿を行った。

(17)学術集会（酒井副理事長）

第 25 回年次大会の企画及び開催（2023 年 9 月 2～3 日）、第 26 回年次大会の準備及び開催(現地開催中止、オンデマンドへの切り替え)について報告があった。

(18)その他（酒井理事長）

看保連と日本看護系学会協議会活動への参加、日本学術会議の諸事業に参加し情報発信・防災学術連携体への参加と情報発信について報告された。

報告後、以下の質疑応答を行い、全会一致で承認された。

【質疑応答】

質問： 特になし

2) 令和 5 年度会計報告・監査報告の承認（宮前理事、三浦監事）：代議員会資料 pp.15-21 【承認】

資料に基づき、令和 5 年度決算報告、会計確認報告について説明があった。また、三浦監事より令和 6 年 7 月 26 日に当該年度における事業報告内容及び財務諸表について監査を行なった結果、適正に表示されていることを認めると報告された。

下記の通り質疑応答を行い、全会一致で承認された。

【質疑応答】

質問： 特になし

3) 令和5年度事業計画案の承認（大野理事長）：代議員会資料 pp.21-24

【承認】

代議員会資料に基づき各事業案の説明がなされた。

(1) 学会誌編集・発行

学会誌第26巻1号～3号の発行及び査読者の選任・委嘱を行う。また、オンライン投稿・査読システムの導入検討を行う。

(2) 組織会員の活動推進

組織会員数の拡大、大規模災害時における看護職での連携体制の整備の検討を行う。

(3) 社会貢献・広報活動

新ホームページの構築、ニューズレターの電子媒体での発刊、市民公開講座を開催する。

(4) ネットワーク活動

初期調査・初動調査、継続調査の実施、先発隊派遣の調整を行う。地域性を重視したネットワーク構築に向けて課題整理や仕組み作りを行う。先遣隊の知識蓄積に向けて、データベースを作成していく。

(5) 教育活動

教育セミナーの企画・実施を年2回行う。スタディツアーを8/18に実施した。

(6) まちの減災ナース指導者

「まちの減災ナース指導者」第7期生の募集と養成研修を実施する。修了生のこれまでの活動報告をホームページに掲載していく。

(7) 認証制度

「まちの減災ナース指導者」第7期生の認証審査、第1・2期生の5年間の業績確認・更新を行う。

(8) 国際交流の推進

英語版のホームページをリニューアルし、日本の災害看護を国外に向けて発信していく。国際ネットワークを構築し、看護支援や共同研究などを進めていく。世界災害看護学会事務局として、ホームページの保守管理、学術集会開催に向けて取り組んでいく。

(9) 募金活動

国内外での災害発生時に看護活動支援募金を行う。

(10) 災害看護学術用語

災害看護関連用語の追加用語の検討やホームページのシステム改善を行う。

(11) 若手アカデミー

若手科学者の視点を活かした災害看護への提言、若手アカデミーのネットワークの拡大を行う。

(12) 災害看護倫理検討

2024年10月からの研究倫理審査会を実施し、審査受付・実施を開始する。災害看護研究における研究倫理の理解や意識向上に向けて年次大会でのセッションを行っていく。

(13) COI マネジメント

COI マネジメント実施体制を確立し、オンラインによる自己申告を開始する。COI マネジメントに対する理解と意識向上のための研修会を実施する。

(14) 災害看護ケアの質向上

災害看護学としてのシンポジウムを通して、災害時のケア内容の充実、ケア体制整備に関する検討を行う。

(15) 将来構想プロジェクト事業

災害看護に関する活動体制及び方法の開発、災害看護学としての知識体系・教育プログラム体系、国内外のネットワークの検討、安定的な組織運営を行っていく。

(16) 学術集会

第 26 回年次大会の企画及び開催、第 27 回、第 28 回年次大会の準備を行う。

(17) その他

看保連、日本看護系学会協議会（JANA）、防災学術連携体、世界災害看護学会（WSDN）や世界看護科学学会（WANS）、HEDN との連携・活動を推進する。

報告後、以下の質疑応答を行い、全会一致で承認された。

【質疑応答】

質問： 特になし

4) 令和 5 年度予算案の承認（宮前理事）：代議員会資料 pp.29

【承認】

資料に基づき令和 5 年度予算案の説明があった。以下の質疑応答を行い、全会一致で承認された。

【質疑応答】

質問： 特になし

5) 委員会活動報告

(1) まちの減災ナース指導者（松岡理事）

松岡理事より、第 6 期生の「まちの減災ナース指導者」研修の実施状況、及び第 1 期生～第 6 期生の現況、修了生フォローアップ研修・アンケート結果について報告があった。

(2) ネットワーク活動報告（佐々木理事）

令和 6 年能登半島地震に関するネットワーク活動委員会の先遣隊の調整活動について説明された。先遣隊の知見蓄積のための Google Drive を用いた情報共有ポータルサイトを作成し運用した。これまでの初期調査活動のまとめでは、水害が増加していることが報告された。8 月 30 日 12 時現在の台風 10 号による被害状況、今後の予測について報告された。ライフラインの影響として停電・断水がみられる。

(3) 令和 6 年能登半島地震災害看護プロジェクト（酒井副理事長）

酒井副理事長から令和 6 年能登半島地震の被害状況について説明された。避難所数、災害関連死者数、通水率の低さについて報告された。在宅避難者でも水が出ない家が 9 割、下水もままならない状況で中長期的な支援が必要である。珠洲市ささえ愛センターが開始し、在宅全戸訪問に力を入れている。避難所では要フォロー 1 割であったが、在宅では要フォロー 3～4 割である。2 次避難で外に出られた人のうち、親戚宅に身を寄せた方の下肢筋力低下が増加している。住居・医療・教育等、住民間の課題に向き合い合意形成をしていくコミュニティを再構築していく必要がある。お茶会、復興塾を実施している。生活再建の見通しが立たない状況であるが、これまでの伝統・文化も踏まえた復興支援が必要である。

6) 第 28 回年次大会大会長の承認（大野理事長）：代議員会資料 p.30

【承認】

日本赤十字秋田看護大学の佐々木 久美子氏が推薦され、全会一致で承認された。

7. 第 27 回年次大会会長あいさつ

長田 恵子氏（東京医療保健大学）より挨拶があった。テーマは「災害における看護の汎用性」、会期は 2025 年 9 月 6 日（土）・9 月 7 日（日）、東京都渋谷区で行われる。

8. 閉会のあいさつ

酒井副理事長の挨拶により、令和 6 年度定時代議員会は閉会した。

一般社団法人日本災害看護学会 令和 6 年度定時代議員会 議事録

令和 6 年 8 月 30 日

議長 (印)

議事録署名人 (印)

議事録署名人 (印)

(印)

(印)

(印)

（議事録作成者：理事長 大野かおり）